

特殊溶接材料メーカーの特殊電極(トクテン、加古川)にも注力していく。二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)削減に貢献できる市)は自社技術の海外展開を強化する。アジア地域で認める技術や製品で、同じ問題意識を持つ企業とは国内外知度を上げるとともに、海外の優れた製品の国内販売を問わずに連携したい」という。(塩津あかね)

# 特殊電極、脱炭素で海外展開

## CO<sub>2</sub>削減技術アジアでPR

トクテンは特殊溶接材料の製造販売や工事を手がける。設備や機械部品などの表面に異なる金属や合金を溶接することで、修復するだけでなく、耐磨耗や耐腐食、耐熱といった特性を付加できるのが特長。部品交換するのに比べると、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の発生も抑制できるとしている。

すでにタイと中国で、現地企業などと合弁会社を設立し、溶接材料の提供や工事を行っている。これまで海外事業を統括する部署がなかったため、昨年11月、海外事業開発推進部を新たに設けた。ただ海外で同社の技術力の認知度は低く、今後、アジア地域で技術営業を強化し、施工も手がけていく計画だ。

溶かした金属を金型内に射出して自動車部品などを成形する機械「ダイカストマシン」の部品や関連機器を製造する、スロベニア、インドのメーカー2社と連携。日本国内で二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)削減に寄与する製品の



特殊電極が販売を本格化するスロベニアのアルロテックの製品(特殊電極提供)

## 外国企業と連携 優れた製品の国内販売も

販売を本格化させる。

このうちスロベニアのアルロテックは、アルミで複数の部品を一体成型する最先端の技術「ギガキャスト」に対応した射出部品を製造。ドイツのBMWやフランスのルノー、ホンダ、トヨタ自動車のグループ企業などに納入している。今後、日本でも導入が増えるのとみて輸入販売することを決めた。トクテンは自動車メーカーや1次下請けなどへの営業、アフターサービスを担う。

インドの金型冷却装置メーカーRAGA(ラガ)は、金型が正常な冷却状態を保つよう管理・監視する装置を手がける。ダイカストマシンを使うメーカーに広く需要があるとみている。

この2社の製品は日本だけでなく、アジアでの販売も視野に入れる。トクテンの海外事業開発推進部の岩崎英部長は「カーボンニュートラル(温室効果ガス排出の実質ゼロ)の実現に寄与したい」と話した。11月14日から横浜市で開催される「日本ダイカスト展示会」で展示する。